MINISTÈRE
DE L'ÉDUCATION
NATIONALE
ET DE LA JEUNESSE
Liberté
Égalité
Fraternité

EAE JAP 4

SESSION 2023

AGREGATION
CONCOURS EXTERNE

Section : LANGUES VIVANTES ÉTRANGÈRES
LANGUE ET CULTURE JAPONAISES

VERSION SUIVIE D'UN COMMENTAIRE GRAMMATICAL

Durée : 6 heures

Documents autorisés : Dictionnaire Kôji-en, Iwanami, 1983, et rééditions; Dictionnaire Taishûkan kango shinjiten, Taishûkan, 2001, et rééditions ou, à la place de ce dernier, Dictionnaire Shinsen kanwa jiten, Shôgakukan, 1983 et rééditions. .

L'usage de tout ouvrage de référence, de tout autre dictionnaire et de tout matériel électronique (y compris la calculatrice) est rigoureusement interdit.

Il appartient au candidat de vérifier qu'il a reçu un sujet complet et correspondant à l'épreuve à laquelle il se présente.

Si vous repérez ce qui vous semble être une erreur d'énoncé, vous devez le signaler très lisiblement sur votre copie, en proposer la correction et poursuivre l'épreuve en conséquence. De même, si cela vous conduit à formuler une ou plusieurs hypothèses, vous devez la (ou les) mentionner explicitement.

NB : Conformément au principe d'anonymat, votre copie ne doit comporter aucun signe distinctif, tel que nom, signature, origine, etc. Si le travail qui vous est demandé consiste notamment en la rédaction d'un projet ou d'une note, vous devrez impérativement vous abstenir de la signer ou de l'identifier.
Le fait de rendre une copie blanche est éliminatoire

Tournez la page S.V.P.

1. Traduisez en français le texte joint (extrait de 小熊英二『民主と愛国』新曜社、2002 年)

2. Expression de l'aspect
Définissez cette notion et analysez les différentes tournures aspectuelles présentes dans le texte.

「敗戦から二十年ちかくたつて、私は、今、矢玉をうちつくした感じがしている。」

鶴見俊輔は、高度成長と東京オリンピックに世間が沸いていた一九六四年にこう書いた。

敗戦時に二〇代から三〇歳前後だつた知識人たちも、この時期には中年から初老のときを迎えていた。竹内好や丸山眞男は、一九六〇年以後は時事的な言論活動からしだいに退き、それぞれの研究にむかつていつた。彼らより若い年代に属する鶴見俊輔も、安保闘争の終焉後は、鬱病で一年以上ひきこもる生活を送つている。

こうして従来の戦後思想家が退場し、知識人の世代交代が進んでゆくのと並行して、高度成長による社会変動が急速に進んでいた。そうしたなかで、一九六〇年代半ばから、ナショナリズムにかんする言説の構造も大きく変化していつた。以下の第三部では、その模様を具体的に検証してゆくが、本章ではその前提として、この時代における社会構造と言説の変動を概説する。

高度経済成長と「大衆ナショナリズム」

高度経済成長の進展は、急速だつた。一九五五年から六〇年の実質平均成長率は八・七パーセントだつたが、一九六〇年から六五年は九・七パーセント、一九六五年から七〇年は一一・六パーセントにまで伸張した。この状態は、石油ショックがおきた一九七三年まで継続する。

日本の国際的な位置も、大きく変化した。対米貿易収入の増加により、アメリカの市場開放要求が高まり、輸入自由化率は一九五五年の一六パーセントから一九五九年の二六パーセント、そして一九六三年には九〇パーセントをこえた。その一九六三年には、日本は発展途上国を支援するOECD（経済協力開発機構）に加盟し、国際的にも先進国の一員となつた。

高度成長と輸入自由化は、農業人口の減少と、急激な都市化をひきおこした。第7章でも述べたように、一九四五年には二八パーセントだつた都市人口は、一九七〇年には七二パーセントにまで上昇した。東京は一九六二年に世界初の人口一〇〇〇万人の都市となり、一九六四年に開催された東京オリンピックの準備で大規模な公共事業が行なわれたことを境として、敗戦後の焼跡・闇市の風景は消滅した。

ライフスタイルの変化も急激だつた。一九六四年に渡米した山本明は、ティッシュペーパーや冷凍食品の存在に驚愕した。しかし山本が帰国した一九六八年には、これらの品々は日本にも急速に普及しはじめており、一九七三年に再び渡米したときには「目をみはるものはアメリカには何一つ見当たらなかつた」という。

生活様式の変化は、人びとの意識をも急速に変えた。西日本の農村を調査していた民俗学者の宮本常一は、一九六八年に、「昭和三五年頃を境にして村人の統一行動が非常にむずかしくなつて来ている」と記した。宮本によれば、かつての村人は「村がよくなれば村の一軒一軒の生活もよくなるのだと信じ」、「単に自分の家さえよくなればよいと考えているものは私の接したかぎりでは一人もなかつたといつていい」。しかし高度成長によつて、個人が個人として収入を得ることが可能になり、「テレビが五〇%以上普及しているところでは、その地域のものが一つになつてあたらしい問題にとりくもうとする意欲はなくなつていた」というのだつた。

こうした変化は、大衆文化にも現われた。一九六〇年代前半の映画や漫画では、「一人の百歩よりみんなの一歩」といつた言葉に象徴される、エゴイズムの克服と連帯の形成がテーマにされることが多かつた。しかし一九六〇年代後半になると、都会の青年の孤独な心象風景が、より多くとりあげられるようになる。

たとえば一九六四年から連載が開始された漫画『サイボーグ009』では、連載初期には九人のサイボーグ戦士た

ちの「チームワーク」が強調されていた。しかし一九六〇年代末になると、九人の登場人物たちは各自の職業で成功を遂げ、「チームワーク」の強調は少なくなった。その中間点にあたる一九六七年には、登場人物たちが、以下のような会話を行なっている。

「幽霊島からにげ出したころのあたしたちはよかったわ。ほんとうにチームワークがとれていた……。それなのにいまはどう？　みんなばらばらじゃない。……」
「……いったいなぜだろう？　なにがげんいんかな？」
「みんなしあわせになったからだよ」
「え？　しあわせに……？」
「……みんな自分の生活を手にいれてしまったからだ」

一九六六年から連載された野球漫画『巨人の星』にも、同様の変化がうかがえる。連載前半では、都市貧民街（「長屋」）出身の主人公が、戦争で野球の夢を断たれた日雇い労働者の父に鍛えられ、長屋に一台しかないテレビの前に集まるコミュニティの人びとの応援をうけつつ、「個人よりまずチーム」という倫理に目覚めてゆく過程が描かれていた。しかし連載後半には、主人公はテレビと応接セットが整えられた富士山の見える高層マンションに転居し、主人公の家族も分解してゆく。主人公の恋人役も、連載前半は地方農村に奉仕する看護婦だったが、後半には新宿の孤独な不良少女に変わる。

こうした現象と並行して発生したのが、体系的な思想をもたない、無自覚的なナショナリズムの広がりだった。地方コミュニティが崩壊し、全国の生活様式や文化が「単一化」するにしたがい、人びとは「村人」から「日本人」に変容しつつあった。もちろんこれは明治期から進行していた事態だったが、高度成長はその最終的な仕上げの機能を果たした。高度経済成長の進展、一九六三年のＯＥＣＤ加盟、そして一九六四年の東京オリンピックは、国際的にも日本の地位が上昇したことを印象づけた。

一九六六年に、作家の小田実は、こう述べている。

私はここ六年間予備校の教師をつとめて、日々、二十歳前後の若者に接する機会をもつが、六年の時間のひろがりのなかで、若者たちの意識の変化は、対ナショナリズム、対国家観に関してもっともはげしい。私の直接経験を比喩を使って言いあらわせば、六年前、私の接する十人の若者のなかで、「日本をどう思うか」という私の問いに対して「日本は立派だ」と答える若者は、おそらく一人だっただろう。そして、彼は、自分は日本に必ずしも満足していない。しかし、自分は日本人だから、日本をそんなふうに認めるのだと、あまり明るいとは言えない表情でつけ加えたことだろう。同じ若者が「国を愛する」ということを気恥しげに、しかし、それなりの決意をこめて言い切ったにちがいない。外敵が侵略してきたら、きみは自分の生命を投げ出して国を護るかと訊くと、たいていが笑って、逃げますよ、と答えただろう。一人が真面目な顔で、それはさっき「国を愛する」と言い切った若者と同じ若者なのだろうが、「国を護る」というのはどういうことか、国の何を護るというのか、と反問して来たにちがいない。

Tournez la page S.V.P.

INFORMATION AUX CANDIDATS

Vous trouverez ci-après les codes nécessaires vous permettant de compléter les rubriques figurant en en-tête de votre copie.

Ces codes doivent être reportés sur chacune des copies que vous remettrez.

Concours	Section/option	Epreuve	Matière
EAE	0430A	104	0330

IMPRIMERIE NATIONALE – 23 0113 – D'après documents fournis